

## 第11回

# 日本歌曲を歌う ～楽しく歌おう (2)～

### 学習のねらい

日本にはたくさんの優れた歌曲がありますが、今回はその中から北原白秋作詞、山田耕筰作曲の歌曲「この道」を歌います。美しいメロディーと日本の言葉を味わいながら心を込めて歌いましょう。腹式呼吸の復習と発声のしかたについてもあわせて学びます。



講師  
馬淵明彦

### 呼吸法と発声

第3回で練習した基本的な腹式呼吸について復習してみましょう。まず、短い息を吐く練習として、ローソクの火を消すときの要領で「フッ!!」と息を出します。このとき下腹部の動きを使って一気に吐き出します。短い息に続いて長い息を出しますが、長い息は下腹部が徐々にへこんでいくように押出します。

次に、腹式呼吸を意識してピアノの音に合わせて声を出していきます。一人ひとりの持っている声が一番自然で美しいと思いますので、必要以上に作った声にならないように気をつけてください。首や下あごに力が入らないようにして、息もれした声ではなく、しっかり音を出すつもりでリラックスして発声してください。

### 「この道」を歌う

呼吸法と発声に気をつけて歌ってみましょう。

### 歌詞の内容を味わい気持ちを込めて歌う

「この道」は北原白秋が札幌を訪れたときの印象を詩にしたもので、白秋は「これは『からたちの花』\*の妹です。『からたちの花』にもまた美しい音楽を与えてください。」という意味の言葉を作曲家の山田耕筰に贈ったことで誕生したものです。

日本語の発音に気をつけながら歌いましょう。まず、言葉のはじめの音をしっかりと出しましょう。はじめの音をしっかりと伝えることは聞き手に言葉を理解してもらうためにとても大切です。

歌い出しの「このみち～は～」という言葉は、音楽の区切りである小節の最初の音を強く歌ってしまうと「ち～」が目立ちすぎて日本語としては不自然なものになってしまいます。そこで、「み」の発音をやや強く、「ち」の発音を少し弱くして自然な言葉に聞こえるように歌いましょう。

また、「アカシア～の～」と「ほ～ら、しろ～い」のように同じメロディーでも違った区切りの歌詞がついていたりしますので、それに応じて歌い分けるようにすると、日本語を美しく歌えると思います。

「この道」の歌詞について山田耕筰は自分で書いた作品解説の中で「世の誰よりも母に愛され、世の誰よりも母に慈しまれた私は、世の誰にもまして母を思う心、切である。『この道』を手にした私は、いとけなかりし日を思い、あたたかい母の手に引かれてそぞろ歩きした道を偲び、ありし日の淡い追憶にひたらずにはおられなかった。どうか母を慕う心を連れ弾きとして、この小さな歌を唱ってください。」と書いています。

詩の内容を味わいながら日本語の発音に気をつけて、気持ちを込めて歌ってみましょう。

※『からたちの花』（作詞：北原白秋 作曲：山田耕筰）

### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

「この道」 作詞：北原白秋 作曲：山田耕筰

作詞者の北原白秋（1885～1942）は早稲田大学を中退の後、短歌や詩の創作活動を行い、1918年に創刊された児童文学雑誌「赤い鳥」に童謡を発表しています。

作曲者の山田耕筰（1886～1965）は、わが国で世界的水準に立った作曲家のひとりです。東京音楽学校（現東京藝術大学）を卒業後、ドイツに留学してベルリン高等音楽院で4年間作曲を学びました。その後、自作の交響曲や交響詩を自ら指揮するなど活躍しました。生涯を通じて日本の音楽芸術の基礎を築きましたが、その活動範囲は広く、器楽、声楽、オーケストラ、室内楽、舞踏、文学、詩、などの各分野にわたっています。

山田耕筰は、歌曲について「歌曲というものは詩と音楽が不可分の関係におかれた芸術的な融合体を指すのだ。」と述べています。